

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0171000433		
法人名	医療法人 英生会		
事業所名	英生会グループホームゆめみの		
所在地	江別市ゆめみ野東町33番10 電話：011-391-3119		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年7月31日	評価確定日	平成20年8月18日

【情報提供票より】 (平成20年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月19日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤12人, 非常勤7人, 常勤換算14.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1,2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:20,000円 暖房費(10~5):3,000-7,000円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 450円
	夕食	450円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	2名	要介護2	5名
要介護3	8名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85歳	最低 77歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 英生会 野幌病院 野幌歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「英生会グループホームゆめみの」は、緑に恵まれた環境にあり、静かな新興住宅街に立地している。母体法人は長年にわたり地域医療に力を注いできた病院である。治療の場での認知症ケアに限界をもち、運営者はスウェーデンのシルビアホームで学び、平成16年にホームを開設し、その精神と環境を理想として進めてきた。職員は利用者を自分の家族のように意識し、残存能力を引き出しながら一人ひとりの暮らし方を支えている。法人病院と連携体制にある環境で、利用者は畑仕事をしたり、また、温泉、ドライブ、喫茶店に行くなど、それぞれに楽しんでいる。所長、管理者、職員は一つになり、利用者の生活の質を高める目標に向けて熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果に「取り組みに期待する項目」は特にない。地域住民との双方向的な交流を楽しみ、利用者は丹念に育てた菊を「菊づくり展」に出し、その成果を発表した。今年の文化祭には、自治会館で利用者の作品を展示したいと考えている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 所長が評価の意義を周知し、自己評価では、項目をグループごとに分けて全員で取り組んだ。職員は自己評価を通して、地域密着型サービスへの関心が深まり、利用者との交流場面を積極的に作っている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、多数の家族が出席し内容によっては利用者の参加もある。会議ではホームの状況報告と詳細な事故報告書を作り、起こりやすい状況を家族とも共有し具体的な改善に取り組んでいる。また、所長は市の担当者と連携を築いており、「グループホーム管理者の集い」・市との共催「認知症のセミナー」では講師になり、市民を対象に認知症への理解に取り組んでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、担当職員が手書きの個人便りを送っている。その他、全体的な報告の「ゆめみの」便り、行事の写真「ゆめみの写真館」など、利用者の暮らしぶりを多方面から報告している。家族の訪問時には必ず声をかけ、簡単なことでも聞き逃さないようにし、定期的に無記名の家族アンケートも実施している。法人内での連携に欠けるとの苦情には母体法人とも協議し改善すると同時に、他部門に認知症の理解を深める働きかけを行っている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の行事やお祭りに参加する一方、法人主催の夏祭りには利用者の作品などを展示した「ふれあいコーナー」を設け、大勢の人々と交流する機会を積極的に作っている。地域の一員として、町内会の子供見守り隊(パトロール)に協力している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した医療・福祉の推進を掲げる母体法人の理念に沿って、その人らしい暮らしを支える事業所独自の理念をつくり、その基本方針の中に地域で暮らす継続性をとりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有と実践に取り組んでいる。職員はネームプレートの裏に理念と基本方針を明記し、日々のケアで意識化している。また、理念をもとに個人のケア目標を立て、半年ごとに管理者と話し合い、次年度の目標につなげている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事やお祭りに参加する一方、法人主催の夏祭りには利用者の作品などを展示した「ふれあいコーナー」を設け、大勢の人々と交流する機会を積極的に作っている。地域の一員として、町内会の子供見守り隊（パトロール）に協力している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	所長が評価の意義を周知し、自己評価の項目をグループごとに分けて全員で取り組み、職員が話し合っって記入したものを管理者がまとめた。職員は自己評価を通して、地域密着型サービスとしてのケアに関心が深まり、利用者と住民との交流場面を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、多数の家族が出席し、内容によっては利用者も参加している。会議ではホームの状況報告や詳細な事故報告書を作り、実際に起こりやすい事故の状況などを家族とも共有し具体的な改善に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	所長は市の窓口を週に1回は訪問し、担当者との関係作りに努めている。また「江別市グループホーム管理者の集い」・江別市との共催「認知症のセミナー」では講師になり、市民を対象に認知症への理解に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、担当職員が手書きで個人便りを送っている。その他に、2ヶ月ごとの全体的な報告「ゆめみの」便り、行事の写真を載せた「ゆめみの写真館」など、利用者の暮らしぶりを多方面から報告している。金銭管理も適切に処理し原本を渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には必ず声をかけ、簡単なことでも聞き逃さないようにし、定期的に無記名の家族アンケートも実施している。法人内での連携に欠けるとの苦情には母体法人とも協議し改善すると同時に、他部門に認知症の理解を深める働きかけを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の他部門開設時に、職員の異動などが多い。職員の異動は便りで報告し、訪問時にも伝え、可能な限り本人にも説明している。馴染みの職員がサポートできるように配慮し、担当者が代わっても、職員間の申し送りを密にしてケアサービスの継続性に努めている。	○	小グループユニットでの職員の異動等は、利用者にとって精神的な負担や寂しさなどの影響が大きいので、馴染みの関係を大切にす観点から、必要最小限に抑える努力を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の介護習熟度に応じ、職員の希望も入れ外部研修への機会を作っている。研修内容によっては業務扱いにし会議などで報告している。ホーム内での講習会や母体法人の定期的な研修に参加しており、働きながら学べる恵まれた環境である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の「グループホーム管理者の集い」と、「職員交流会」に、職員は両方とも参加している。今年も職員を含めた全体的な交流会を予定している。同業者の講習会や交流会では相互に行き来しており、サービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、可能な限り本人の見学をすすめ顔なじみの関係を作っている。入居後も利用者が自宅に帰りたい時は、状況に応じて一時帰宅（外泊）を実施している。夜間など家族の心配ごとに対応し、利用者が安心して新しい生活に馴染めるような工夫を話し合いながら進めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は料理、掃除、畑などを一緒にする中で利用者に学ぶことが多い。「介護をする」との意識を持たず、利用者が意欲的に取り組める場面をつくり、ともに楽しみ自然な関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	見学時に本人の意向を聞き、またカンファレンスにも入ってもらい、できるだけ利用者の思いをプランに生かせるようにしている。意思表示が難しい場合は家族等からの情報を参考にし、本人の望みを職員間で検討し取り上げている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、計画作成者が本人や家族の希望、要望を聞いて原案を作成し、ケアマネージャー、看護師など関係者の意見を聞き、全職員でアセスメントを行い利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院など大きな変化がない時は、見直し期間を3ヶ月に設定しているが、月1回は、それぞれの利用者のモニタリングを行っている。現状に即した介護計画になるように、受診時に直接主治医や看護師の意見を聞いて介護計画に反映させている。9月より、センター方式による介護計画を作成する予定で、現在全職員で研修会も行なわれている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊、床屋などへの送迎も柔軟に対応している。24時間医療連携体制を取っている。高齢者介護相談や子供見守り隊など地域住民の支援を行うとともに、他のグループホームの見学や相談も随時受け入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、かかりつけ医の受診も継続して行われている。通院時、家族送迎が困難な場合は、職員が同行して受診結果を家族に報告している。法人母体の協力医により月2回の訪問診療を受け、利用者の健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りに関する書類を作成し、入所時に家族や本人に説明し、6ヶ月以内に承諾書を取り交わしている。その後も定期的に相談して、随時承諾書の見直しを行っている。利用者や職員の状況に応じて、看取りに関する内部研修を行い、全職員で共通した対応が出来るような体制作りをしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレへの声かけや誘導も、他の利用者に気づかれないような配慮をしている。「ダメ」という言葉は使わないようにして、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような対応に配慮している。個人情報書類の保管、取り扱いには注意をはらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務調整を行いながら、利用者の行きたい所などに同行出来るように柔軟に対応している。基本的な1日の流れはあるが、利用者のペースを大切にして、食事時間や就寝時間も柔軟に対応している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	水、日の2回は、利用者の希望を取り入れた献立にして、楽しく食事が出来るように配慮している。天候や利用者の状況に応じて、庭や公園で食事を楽しむ事もある。準備や調理、後片づけも利用者と職員と一緒にいき、会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する事が出来、希望があれば午前入浴も可能になっている。利用者一人ひとりが週3回は入浴出来るように考え、希望があれば敷地内の小規模多機能の大きなお風呂や温泉入浴などにも柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の畑仕事や掃除、食器洗いなど、本人の希望や残存能力を把握して、楽しんで役割を持って生活できるように支援している。パッチワークや折り紙など制作した物を文化祭に出展し、利用者が張り合いのある日々を過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近くの公園や事業所の周りを散歩して、出来る限り毎日外出出来るように支援している。玄関前のベンチで食事をしたり、屋台ラーメン屋さんを呼んで食事を楽しむ事もある。利用者の希望に沿って、買い物やドライブにも柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間の連絡体制が整えられており、日中は玄関に鍵をかける事なく自由に入出入りが出来るようになっている。外出した時は、さり気なく声かけして一緒に出かけたり、一人で外出を好む利用者に対しては見えない所から見守り、安全に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署への届け出訓練を年2回実施し、その他、自治会の消防訓練や事業所の自主訓練も随時行われている。夜間を想定した避難訓練も行われている。災害時の避難、救出マニュアルを作成し、全職員で対応を共有している。	○	夜間を想定して、近隣住民と一体となった避難訓練の実施を考えているので、運営推進会議の議題に取り上げ、地域住民の協力を得た避難訓練が行われる事を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎日記録して全職員が把握し、水分摂取量の少ない利用者には好みの飲料やゼリーなどを提供して水分補給に配慮している。献立メニューは、法人内の管理栄養士に見て貰い、バランスの良い食事が出来るように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間の窓からは、庭の花や畑を見渡すことが出来、季節感を感じる事ができる。居間には、利用者や職員の手作りの大きな日めくりや七夕飾り、ちぎり絵、写真などが飾られ、季節感を感じながら落ち着いて居心地良く過ごせる工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口は、廊下から少し奥まっているため、落ち着いた安心感のある居室になっている。入口には職員の手作りの表札がかけられ、中には使い慣れた家具や写真、ぬいぐるみなどが持ち込まれていて、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。